

～愛され続けて23年～

創刊から

おかげさまで



100号

創刊からの思いを振り返る

トコトコ特集!

創刊から
100号
トコトコ特集!

社内報はこうして生まれた 知られざる「トコトコ」誕生秘話



記念すべきトコトコ第1号

社内報「トコトコ」は、それはそれは大昔のQCサークル(小集団活動)における現在の総合サポート課(当時は 管理部という組織)の改善活動の一環として始まりました。

当時は、Web環境やPCが中小企業にも普及し始めたばかりの時代。現代と比べると会社の情報を多くの部門の従業員に伝える手段が圧倒的に少ないという時代背景がありました。

当時の管理部の課題としてあったのが、幹部社員同士は幹部会などで対面のコミュニケーションを取る機会がそれなりにある一方、現場の従業員同士は他部門と関わる機会が少なく、仕事内容も全く知らないため、興味を持つきっかけすらないということでした。そこで、管理部の小集団活動として、「社内報」を発刊し、少しでも他の部門に興味を持て

るような情報発信を継続。“他部門の情報が社員の隅々まで伝わらない”という壁を乗り越えるぞ!というチャレンジとして行ったのが、“社内報の第1号”となります。

いまやそれが、第100号まで続いているというのは、なかなか感慨深いものですし、当時の管理部メンバーが幾度となく心折れそうなところを踏ん張ってやっていたことを踏まえると感動すら覚えます。

「トコトコ」100号に寄せて

第1号で社内報の名称を募集しており、応募数はほとんどなかったようですが、社員応募というこれも当時ではなかなかない制度によって、現在の「トコトコ」という名が命名されました。

当社の会長の思想に、「ウサギさんよりカメさん」「凡事徹底」というキーワードがあり、「トーコンという社名」と「着実に1歩ずつ進歩進化する」というイメージを繋ぎ合わせ「トコトコ」という名称で応募し、それが第100号まで続いているというのは、嬉しい限りです。

(本社・永井)

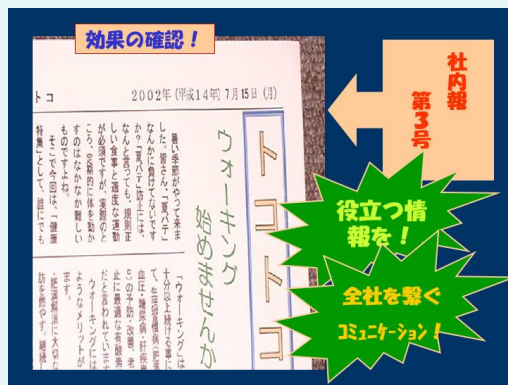
社内報発想の瞬間——そのきっかけとは？

これまで「社内報は改善活動の一環として始めた」と発信してきましたが、実はもう少し手前に「社内報」に思い至った切っ掛けがありました。

20年以上前のある日、当時の会長(創業者・櫻井昭二)から、本社メンバーへ「回覧」としてひとつの冊子が回ってきました。さらには、読んで感想を会長へ直接提出せよ、とのことでした。会長からこのような指示を受けたのは初めてだったので、大変困惑しました。しかし、この出来事が後の「社内報」発行へ繋がる事となったのです。

記事の内容は「基本業務のコンピューター化」について。私は感想文の中で「自部門でもパソコン導入を検討中ですが」と記載しており、当時の最先端トピックスだったことが伺えます。しかし私が一番興味を持ったのは、「社内の複数メンバーで同じ記事を読むことの楽しさ」でした。感想文の中でも「このような社内新聞的なものは、非常に良いアイデアだと思いました。(略)4月に入ってくる新入社員に会社の情報を伝えるための適当な方法がなく、「社内新聞」のようなものがあったら、と思っていたところでした。」と触れていくくらいです。

その後、社内で「小集団活動」が本格化し、全部署において改善の実施と成果発表を行うこととなりました。当時から、現場では当たり前になっていた「改善」ですが、一方、本社では浸透しておらず、問題の抽出や改善策の考え方も解っていない状況でした。しかし活動は「全部署」。何かに取り組みなければ!焦りに焦って絞り出したのが「事業部へのサービス向上」というテーマ。その実行手法として始まったのが「社内報」だったのです。当時は、年4回の発行を第4号まで行うという目標を定め、事業部の紹介や社員インタビュー等、今も続くコーナーが生み出されました。



管理部(当時)の小集団活動発表資料

不安だった発表も無事に終える事ができ、あ〜めでたし、めでたし、、、で社内報の発行も終わりにしようとしていた私たち。それが100号まで続くことになるとは、、、。

続けられた要因は、読者の皆様からの声です。最初の数刊は特に反響も無かったのですが、第4号を発行した頃から、社内からの「読んだよ」の声、取引先へ持って行ったら興味を持って読んでくれた。などと有難い反響が届くようになり、事務局も気分上々(笑)結局、定期発行することになったのです。

実際のところ、掲載記事が無くて困ったことは一度もありません。それはトーコンが常に動いている会社なのだな、と実感する瞬間でもありました。

さあ、第100号です。これを区切りに、トコトコもスパイラルアップしていきますので、皆さん、どうぞご期待ください!

(総サポ・中津川)

社内報
創刊号～第100号
期間限定大公開!

創刊号から第100号までの社内報を、期間限定で大公開!

これまでの歩みを振り返るチャンスです。ぜひご覧ください!

QRコードからアクセスいただけます。(公開期間:2025年5月31日まで)